

# 第1回（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会 議事録

日時：平成26年11月20日（木）10：00～12：00

於：奈良市役所 北棟6階第22会議室

## 1. 出席者

### 1. 委員

大窪 健之	立命館大学 都市システム工学科 教授
国枝 よしみ	大阪成蹊短期大学 観光学科 教授
北口 照美	奈良佐保短期大学 客員教授
向井 光太郎	奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授

大西 耕司	大安寺地区自治連合会 会長
梅林 聰介	大安寺西地区自治連合会 会長
河野 良文	大安寺 貫主
山田 満穂	奈良県立図書館 副館長

（欠席委員）

佐藤 由美	奈良県立大学 地域創造学部 准教授
-------	-------------------

### 2. 事務局

副市長	津山 恭之
都市整備部長	東井 素生
都市計画室長	宮本 和典
都市計画課長	喜多 六宏
課長補佐	角井 力
市街地整備係長	萱 則昭
他4名	

## 2. 議事

### 1. 開会

（事務局）

第1回（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会を開催させていただきます。委員の皆様には、お忙しいところご参加いただきありがとうございます。また、奈良市行政の推進にご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本日は、第1回目の委員会開催でありますので本来、市長の仲川よりご挨拶をさせていただくのですが、所用により副市長の津山より委員の皆様にご挨拶を申し上げます。

### 2. 副市長挨拶

本日はご出席を賜り、平素より奈良市行政のご協力を賜り感謝申し上げます。（仮称）奈良IC周辺まちづくり委員会の委員をご承諾いただきまことにありがとうございます。

この委員会の設立につきましては、計画中である京奈和自動車道の大和北道路と奈良IC周辺、加えて都市計画道路西九条佐保線、JR関西線の高架化、そして新駅構想があり、これらを合わせる形で市南部の新しい観光拠点としての視点、また開発による良好なまちづくりを目指しての計画策定が必要な地域であるという認識をもっています。したがってこの計画策定にあたり、委員の皆様の活発なご意見をいただきますとともに、ご指導ご協力をいただきながら、飛躍的に変貌していく地域

について、観光の核としての地域、良好なまちづくりが必要な地域という2つの視点で委員会に取り組んで参りたいと存じます。今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 3. 委員紹介

(事務局)

#### ○委員紹介および事務局紹介

- ・欠席委員：奈良県立大学准教授 佐藤委員

### 4. 委員会の趣旨説明

(事務局)

#### ○委員会立ち上げの趣旨説明

- ・(仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり計画の目標と具体レベル
- ・(仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり委員会設置要領

### 5. 委員長 選任

(事務局)

#### ○互選により委員長を選任

- ・向井委員より大窪委員が推薦され、出席委員全員の承認のうえ、大窪委員を委員長に選任。

#### ○大窪委員長 挨拶

(仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり計画の策定をとりまとめるにあたり、地元のことを勉強させていただきながら進めたいと思います。委員の皆様にはご協力をよろしくお願い申し上げます。特に計画の目標として、交通の拠点、観光の拠点、商業流通拠点と多機能が求められており、多くのプロジェクトが進められることだと思っておりますが、勉強させていただきながら、委員長として精進して参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

### 6. 副委員長 指名

- ・大窪委員長より国枝委員が指名され、出席委員全員の承認のうえ、国枝委員を副委員長に選任。

### 7. 協議事項

(事務局)

#### ○委員会等の会議の公開について説明

- ・委員会を非公開することについて採決、出席委員全員の賛成により、委員会は非公開とする。

※ここで大西委員が所用により退席

(事務局)

#### ○(仮称) 奈良 I C 周辺の概要説明

■奈良市の現状、広域図、市域図、計画区域図及び計画の目的と検討対象地区 (P. 1～7) について説明

【質疑】

(大窪委員長)

京奈和自動車道も開通区間や計画区間等がありますが、計画区間の開通時期は概ねいつぐらいか。本計画は、開通にむけての検討を行う必要があり、事業の進行状況を教えてもらいたい。

(事務局)

大和北道路については、西名阪道から奈良 I C まで事業着手している。状況としては、奈良市側では各自治会、連合会を対象に説明会を行っており、その後地権者への説明をし、道路幅の杭を打ち、用地買収の手続きに入る。奈良県が国に対して平成 30 年代半ばでの供用開始を要望している。したがって、周辺の整備、西九条佐保線、連立事業、新駅の設置に関しても、平成 30 年代半ばを目標としたスケジュールを組んでいる状況である。

西九条佐保線は大和北道路のアクセス道路と位置づけられており、現在は鉄道を跨ぐ都市計画決定となっているが、鉄道を高架とし、道路を平面化とする都市計画変更を今年度から来年度に行う予定である。同時に新駅の都市計画決定の手続きを行う予定である。

(大窪委員長)

平成 30 年代半ば以降の将来計画について議論するという理解でよいか。

(事務局)

平成 30 年代半ばにすべてが完成するので、それまでに土地利用の方向づけ、それに基づく市街化区域への編入、用途地域の設定等の手続きはすべて終えておきたい。

(梅林委員)

平成 30 年代半ばまでにという話であったが、確実性はどの程度か。

(事務局)

京奈和自動車道は、国の直轄事業であるため奈良 I C までは完成するだろう。その時点でアクセス道路である西九条佐保線がなければ、交通マヒがおこるので、県と市が協力して完成をみないといけないと考えている。

(梅林委員)

地元のまちづくりの観点からも、早期完成をお願いしたい。私どもの地域はミニ開発で広がってきたまちで、曲がりくねった細い道が多く、通過交通の問題もある。そういった課題なども整理しながら協議していきたい。

## ■ (仮称) 奈良 I C 周辺地域の状況 (P. 8 自然環境等～P. 13 観光) について説明

### 【質疑】

(梅林委員)

奈良市全体から見ると、少子化により人口減少とあるが、私どもの地域は横ばい傾向にあり、今後、地域の発展も見込まれるのではないだろうか。小学校児童数は、20 年前で約 600 人、現在は約 550 人と大きく減少していない。どんどん新興住宅が建っている地域で、周辺の環境も含めてよい地域なのだと思う。大安寺小学校は学校教育もよく、地域も安定していると評判でもある。地域資源としては大安寺もあり、地域の資源を活かしながらよいまちづくりを進めていきたいと思っている。

(大窪委員長)

地域は、現在、教育等の子育てに良い環境といえる。今後、交通や物流の拠点という視点もまちづくりの検討にいれる必要があるだろう。

防災面から一部浸水地域となっているが、今回の計画に際していくつか影響するものが考えられるが、特に高速道路の地下化という計画もあり、その対策等は考えておられると思うが、現在の計画状況を判る範囲で教えていただきたい。

(事務局)

奈良 I C の北側は、地下化される予定ではあるが、県では事業については棚上げの状態にある。設計の詳細が示された段階で、浸水箇所もあるので河川整備等も含めて、整備の方針が示されると思っている。現在のところ、はっきりとしたものはわかっていない状況である。

(大窪委員長)

別事業となるが、十分考慮していただきたい。

本計画の検討対象地区が設定されているがその根拠を示してもらいたい。

(事務局)

区域は明確なまとまりのあるものとして、地形地物で区切っている。計画対象地区より広めに検討地区を設定した。

(大窪委員長)

検討の過程で検討対象地区は柔軟に対応するということか。

(事務局)

対象地区を絞って検討していくと考えている。

#### ■ P. 14 土地利用～P. 17 まちづくりの取り組み状況について説明

##### 【質疑】

(河野委員)

大安寺の説明の中で、「平城京、南大門のあった古い寺院で」とあるが、どういった意味か。違うように思うが。

(事務局)

出典を確認して訂正する。

(北口委員)

辰市の場所はどこにあたるのか。

(事務局)

東市として示している場所である。

(大窪委員長)

本計画では、辰市と東市どちらかに統一するのか。

(事務局)

地区としては辰市地区であるが、平城宮の記述では東市となっている。

(事務局)

次回までに確認し整理しておく

(国枝副委員長)

地域のまちづくりの取り組み状況について、大安寺町評議会さんは祭礼の奉仕などもされているが、観光につながるボランティア活動をされている団体があったら追加してもらいたい。

(事務局)

分かりました。

(大窪委員長)

地区で代表的な取り組みについて、地元委員から補足をお願いしたい。

(梅林委員)

連合自治会は2つに分かれており、奈良市の中でも取り組みの活発な地域と評価されている。とくに川辺のまちづくり協議会があり、新興住宅地ですので大安寺地区のように歴史はないが、佐保川を

はじめ桜の美しい川辺を活かしたまちづくりに取り組んでいるところである。社会福祉協議会や、介護施設、周辺施設、地元企業、県や市と一緒に進めている。こういった地域ですので、流通の拠点、産業の拠点といった視点とどう組み合わせしていくか。大安寺さんのような資源を活かして、総合的なまちづくりを進めていきたいと考えている。

(河野委員)

大安寺と地域のかかわりについてですが、大安寺町評議会が寺の東にある集会場の維持管理や、今は分離したが八幡神社の祭礼のかかわりが主であって、直接的なお寺とのかかわりは現時点ではない。旧境内の対策協議会があるが、これは旧境内地にひろがる民家等の問題や埋蔵文化財について対策を検討している。お寺の活動と直接的にかかわる組織はありませんが、個々にお寺の行事に参加して頂いたり、協力いただいている。

(大窪委員長)

川辺のまちづくり協議会では歩いて楽しむまちづくりを目指しておられるが、具体的にはどういったものか。

(梅林委員)

当地区は古くからの開発地は高齢者となっており、新しい住民の若い世代の両極端な年代構成となっている。高齢者と子どもが安心して暮らせるまちをめざしている。川辺を活かしてまちづくりを頑張っていきたい。

(大窪委員長)

次回までに、地元ですでに設定されている、歩いてまわりたいルートがあれば、取りまとめてもらいたい。今後、産業拠点となって交通量が増えた場合のことも考慮する必要がある。

(梅林委員)

県が中心となって佐保川沿いに散歩道の整備を検討してもらっている。住民が安心して歩いて暮らせるまちと、一方では開発していくという課題を考えていかなければならないと思っている。

(大窪委員長)

交通状況の整理について、歩道空間についても追加検討してもらいたい。

## ■ P. 18 道路及び交通～P. 20 交通量の状況について説明。

【質疑】

(大窪委員長)

道路網としては、東西方向の道路が少なく、南北方向の道路も恒常的に渋滞が発生しているとのことである。今回は現状の説明であるが、今後整備が進み、大和北道路の開通や都市計画道路の整備後の交通量予測をされていると思うので、次回までに提示してもらいたい。

(事務局)

検討して、資料を作成したい。

(河野委員)

道についても最重要視されるので、旧の六条大路、二坊から四坊程度の大路についても表記してもらいたい。

(事務局)

資料の中に表示する。

(梅林委員)

委員長が言われたように、都市計画道路の整備後にどう交通状況が変わるのか、ぜひとも提示してもらいたい。朝、国道24号が渋滞し、そのことによりこの地域は抜け道としての通過交通が激しく、

それにより、2名の死亡事故も発生している。地域としてはなんとかしてもらいたいという要望がある。都市計画道路ができることにより、地域の交通状況がどう変わるかを提示してもらうことにより、住民の事業への理解も深まるものとする。

(事務局)

西九条佐保線は旧市街のアクセス道路という位置づけだが、それだけでなく、東西の軸が弱いことが指摘されている。現況の東西の軸としては、県道京終停車場薬師寺線があるが、集落の中を通過しており、現状では拡幅がむずかしいが、新駅予定地の西側の薬師寺くらいまでは部分的な拡幅も可能と考えている。県とも協議しながら対策をとっていききたい。東側については県道の拡幅はむずかしいが、都市計画道路の八条紀寺線について、都市計画道路としての整備はむずかしいが、同じ位置にある市道の拡幅をして、迂回する交通渋滞の解消も構想している。その検討もしながら、本委員会で提示させていただきたい。

(大窪委員長)

東西の既存の路線を活用した交通状況を整理して、まちづくりに活かしていきたいので、道路事業の検討状況の資料も追加してもらいたい。

(北口委員)

関西本線利用の減少が顕著であると記載されているが、日常で大和路線（関西本線）を利用しているが、利用客が増えているように感じている。また、JR 関西線と関西本線の違いがあるのか。

皆が車に乗るわけではなく、今後も鉄道は便利な交通機関だと考えている。

(大窪委員長)

関西本線の利用の減少理由はなにが考えられるか。

(事務局)

J R 関西線、関西本線の表記は整理したい。

観光客の交通機関利用別について、平成24年は観光客数1,330万人のうち鉄道利用者が69%の920万人となっている。鉄道利用のうち近鉄電車は74%の680万人、J R利用者は26%の240万人程度である。車バス利用者は31%の400万人となっている。J R 関西本線の利用者減少理由に、観光客については平成22年の平城京遷都祭に比してJR利用者率が減少していることが言える。

(北口委員)

日常利用としてJ Rを利用している人は多いのではないかと思う。平成22年の平城遷都祭は特別なイベントなので、それと比べる事はできないのではないか。住民のためのまちづくりの視点からみていきたい。J Rの利用者数の分析については検討いただきたい。

(事務局)

補足説明として、実際は平成20年当時と比べて横ばいといえる。観光客のうち外国人はJ R利用が多くなっている。

※国枝副委員長が所用により退席

(大窪委員長)

住民の日常的な移動について視野に入れてもらいたい。観光客は近鉄利用が多いとのことであったが、対象地はJRに乗り換ええないといけないので、どれくらいの流入があるのか、これからのまちづくりにかかわってくるだろう。なるべくパーク&ライドを推進して車でぎっしり入りこむことがないよ

うにしようという方針があると思うので、鉄道利用についても可能であれば、新駅ができた場合の乗客バランスがどうなるかの将来予測もわかる範囲で追加してもらいたい。

■ P. 21 用途地域～P. 23 その他開発・事業・指定等について説明。

【質疑】

(大窪委員長)

都市計画道路八条紀寺線の廃止や、事業中、未着手など図にわかりやすく、また平成30年代半ばまでにどういった形になるのかも含めて示してもらいたい。

(事務局)

資料を整理させていただきます。

(大窪委員長)

新駅設置にあたって、北側にある第一種住居地域や市街化調整区域をどのような位置づけとするのか大きな問題となってくるので、留意して検討していただきたい。

■ P. 24 検討地域の特性と課題～P. 26 上位・関連計画の位置づけについて説明。

【質疑】

(向井委員)

農業についてだが、農振地域に指定されていないこともあり、零細でかつ衰退傾向とあるが、現状のなかでは特産物として八条水菜を付加価値が高いとしている。現状と課題に矛盾はないか。経営が行われているとは、零細農家の中で経営が行われているということか。

(事務局)

はい。

(向井委員)

という逆に、八条水菜の経営農家は熱心な方が多いということか。

(事務局 榎かんこう)

農業については、水稻であるが、中に八条水菜栽培に熱心な方がおられる。

(大窪委員長)

特産物については、今後、まちづくりのなかで調和を考えたいということによいか。

(事務局)

周辺の環境に根差したまちづくりを考えるにあたって、特産品も大切にして調和を図りながらまちづくりを進めたいと考え、八条水菜をあげている。

(大窪委員長)

八条水菜のおおよその栽培地が分かれば図示してもらいたい。今後の可能性としてアンテナショップの配置等が考えられる。

(北口委員)

奈良県からみても歴史観光資源は重要であるが、現在飛鳥地域から奈良市への自転車道のネットワークも考えられているので、本検討地域についても、自転車道のネットワークを検討してもらいたい。

平城宮跡と平城京についても、大極殿が見える眺望等も重要となってくる。この地区は歴史の道からも重要であるので、高い建物があるのはふさわしくないと思う。歴史を感じる眺望も大切な場所であるという認識で進めたい。

(大窪委員長)

都市計画で高さ規制はどうなっているのか。

(事務局)

市街化区域についてはすべて高度地区の指定があるが、市街化調整区域は指定していない。

自転車等については、国でもかなり力をいれているので、国道24号自転車道の整備の準備が進められている。川辺のまちづくりについても自転車道を検討している。それらを含めて総合的に考えていきたい。

沿道景観については、奈良市は眺望計画の保全活用計画があり、この地区の一部は重点地区に指定されている。眺望計画については資料を補足追加する。

(大窪委員長)

自転車道整備の計画や眺望計画について、上位計画で抜けているので追加整理してください。

(山田委員)

図書情報館は、日ごろから地域住民のご利用をいただき、年間で約55万人の利用があり、平日で1,400～1,500人/日があり、土日で2,000人/日の利用がある。かなりの集客施設であるが、アクセスがよくない。本地区が発展して、町全体がよくなると図書情報館もよくなると考えているのでよろしくお願ひしたい。図書館の社会的使命として周辺住民だけでなく、遠方からの利用者についても考慮する必要があり、ぜひとも配慮してもらいたい。

また、将来のまちの姿を考えるにあたって、昔の地域の姿も整理する必要があるので、古文書や古地図等は当図書情報館にあるので、活用してもらいたい。

(大窪委員長)

観光を考えるにあたっては、歴史文化は重要な要素であり、その文化の核を担っている図書館は重要な文化資源であるので、図書情報館へのアクセス等も考慮する必要がある。

現状整理について、地域の沿革が入っていないので、図書情報館の協力をいただきながら歴史資料の補完も含めてお願ひしたい。

いままでの議論の中で、気になったのが、本地区が交通流通の拠点としてまちづくりを進めるが、交通も車や公共交通機関だけの視点ではなく、自転車や歩行者の視点も必要となってくる。歩いていける距離、自転車の距離、公共交通機関でいく距離で検討することもできる。徒歩と自転車と自動車・公共交通のこういったゾーニングができるかも重要だと思われる。それによって、どのアクセス方法によって資源を活用できるかが明らかになってくるだろう。検討資料にもりこんでもらいたい。

上位計画ではパーク&ライドや緑と河川のネットワークがあげられているが、歴史文化の観点からは、企業立地との整合性を図る必要があるだろう。

また交通ネットワークの見直しが課題であるが、担当部局が違うと思うが調整が可能なのか、

本委員会では、どの程度踏み込んだ意見がだせるのか、また前提条件として決まっているものがあるれば教えてもらいたい。

(事務局)

ネットワークとは道路網の関係になってくると思うが、上位計画でもかたまつたものがないと聞いている。今後整理して、次回提示させていただきたい。

(大窪委員長)

もし決まっていなければ、こちらで積極的に決めていくことができることとなる。

(大窪委員長)

次回委員会は、今回の追加資料も含めた説明からはじめるのか。

(事務局)



はい。本日いただいたご意見から追加資料を説明させていただいて、次の課題に入ってきてたい。

(大窪委員長)

本地区は、他の地区と比べて珍しく人口増加のポテンシャルがあるということで、どこも人口減少が続く中、どうやって環境を維持するのかという課題があるが、本地区は特に住宅の開発圧力があるということなので、ある意味、開発コントロールを行う必要があるのではないかと思う。また、観光、おもてなしのまちづくりもある。さらには、奈良ICを活かした工業系の拠点としての可能性もあるということなので、個別に方向性をにらみながら、総合的にそれぞれの関係性を整理する必要があるという難しい課題を抱えている。そのためにも前提条件となる資料が充実していることが大切ですので、事務局で対応していただきたい。

(河野委員)

このあたりが一気に変化していくために、それまでにしっかり検討することは大切だと思いますが、本地区は景観保全の観点からも、平城京の中で重要な位置であったと認識できることも大切であると思う。また田畑がひろがった風景は、奈良らしい風情が残された地区ともいえる。大安寺にお越しの方も周辺が農村地帯で、広々とした周りが見渡せる場所であると、好印象を持っておられる。農村の風景や木と水と道がうまく折り合った中で田畑もあり、そういったものを保っていけるようなまちづくりになればありがたいと思う。大きい建物がないにしても、家が建ち並ぶまちはさげたいなという気持ちを持っている。そういう意味でも今後議論が進められればと思います。

(大窪委員)

歴史をさかのぼって位置づけると伝統的なものもはっきりとしてくるだろうと思う。また地域の特産品としての八条水菜をはじめ、農の生産も生き続けることができることができれば、景観保全にもつながっていくことだろう。一方、生産農地は防災上も重要な役割を果たしており、すべてアスファルトとコンクリートで埋め尽くすと洪水、内性氾濫の危険性があり、バランスをとりながら検討していくことは大切であろうと思う。

## 9. 次回開催について

(事務局)

○次回開催について説明

(大窪委員長)

工程表にしたがって、2月中頃にはまちづくりの理念・目標等及びまちづくりの方向性(案)ができていくということだが、それまで間があいてしまうので、委員に途中段階でも資料等を提示してそれぞれご専門がありますので、意見をいただいてもらいたい。

## 10. 閉 会